

舟体取替えは特殊な作業！ しかし管理者は 作業に立ち会わず！

本部は本日、1月29日に発生した架線切断・停電事故に関する業務委員会を開催しました。

シングルパンタの舟体取替えは、基本的に全般検査時しか発生しない（検修指導書）作業です。車両所で行うとしたら、特殊な作業です。このことは会社も認めています。当然にも、舟体取替え作業は万全を期し助役、技術の指導・立ち会いが必要ですし、取替え作業時に管理者が屋根上に上がっています。しかし目的は、取り外した舟体の電蝕状態の確認だと説明しています。特殊な作業を指示したのにもかかわらず、管理者は作業には立ち会わなかったのです。シングルパンタの舟体取替えは車両所では過去数回行っただけで、平成21年度では今回が初めてでした。作業の進捗状況の把握や慣れない作業へのアドバイスなど基本的なことも行わず、会社はすべての責任を作業員3人に押しつけたのです。

この3人の勤務は「謹慎」となっています。会社は、マスコミを通じて、処分の検討をするといっています。背後要因の分析もせず、「作業員のヒューマンエラー」に原因を切り縮め、処分で乗り切ろうとする会社の姿勢を許すことはできません。会社との議論はまだ続きます。このような会社の姿勢をさらに追及していきます。

**作業員3名のみ
に責任を
負わせるのはやめろ！**